

2023年 安かんきつ栽培管理指針

発行 芸南農業協同組合
 全国農業協同組合連合会 広島県本部
 広島県果実農業協同組合連合会

●業務部経済課 TEL(0846)45-3360
 ●営農センター TEL(0846)46-1017
 ●安浦支所経済 TEL(0823)84-2049
 ●川尻支所経済 TEL(0823)87-2931

重点管理作業	月	旬	定期(基幹)防除		追加防除	定期(基幹)および追加防除					
			み	かん	中 晩 柑	レ	モ	ン			
●苦土・石灰質資材の施用 ●堆肥の施用と中耕 ●間伐 ●中晩柑の剪定	2	全	※必ず、生産工程管理日誌を提出しましょう。								
●春草の除草 ●春肥の施用 ●チッ素葉面散布剤の散布	3	上	ミカンハダニ	クマイアタックオイル	80倍	※ICボルドーを散布する場合、クマイアタックオイルは3月上旬に散布し、散布間隔は14日間以上あける。 ※カイガラムシ類多発園はアタックオイルにアブロードフロアブル1,000倍を混用し散布する。 ※発芽期にICボルドーを散布する場合は80倍とし、葉害防止のためにアピオンE1000倍を混用する。	ミカンハダニ	クマイアタックオイル	80倍		
●花肥の施用(10aあたり硫酸20kg) ●高接ぎの実施		中	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍		樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍		
		下	※12月および1月にマシン油散布していない園地。		かいよう病(発芽前)	ICボルドー66D	40倍	注) 1月にマシン油散布していない園地。 注) マシン油との間隔は14日間あける。	かいよう病	ICボルドー66D	40倍
●夏肥の施用 ●排水路の整備	4	上	(発芽後)		ミカンサビダニ	サルファーゾル	400倍	ミカンサビダニ	サルファーゾル	400倍	
●摘果剤使用方法 タム水溶剤 みかんの局部摘果、はるみの摘果:1,000倍(満開後10~40日後) フィガロン乳剤 みかんの間引き摘果:2,000倍(満開後20~50日後)		中	いしじおよび開花の早い園地	コアオハナムグリ・ケシキスイ類	オリオン水和剤	40	1,000倍	注) 展着剤を混用すること。 ※齡(大きさ)が進むと効果が悪くなるので若齢幼虫期防除を徹底する。	コアオハナムグリ ケシキスイ類	オリオン水和剤	1,000倍
●タイベックマルチの被覆 ●水マグの施用		下	※アドマイヤーフロアブルは開花期に使用してはいけない。		樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●中晩柑の荒もぎ摘果	5	上	いしじおよび開花の早い園地	コアオハナムグリ・ケシキスイ類	オリオン水和剤	40	1,000倍	注) 展着剤を混用すること。 ※齡(大きさ)が進むと効果が悪くなるので若齢幼虫期防除を徹底する。	コアオハナムグリ ケシキスイ類	オリオン水和剤	1,000倍
●中晩柑の仕上げ摘果		中	コアオハナムグリ ケシキスイ類 灰色かび病	エクシレルSE	5,000倍	2,000倍	2,000倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●夏草の除草 ●温州みかん熟期促進(1回目) フィガロン乳剤 3,000倍 ※干ばつ時、樹勢低下樹の場合使用しない		下	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●葉面散布(果皮強化と品質向上) カルピタP 770倍	6	上	灰色かび病 サビダニ・ホコリダニ 黒点病	ストロビドドライブフロアブル	3,000倍	2,000倍	2,000倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●温州みかん熟期促進(2回目) フィガロン乳剤 3,000倍		中	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●秋肥の施用...中晩柑		下	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●葉面散布(果皮強化と品質向上) カルピタP 770倍	7	上	ミカンハダニ ヤブカイガラムシ アザミウマ類	クマイアタックオイル	150倍	2,000倍	2,000倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●温州みかん熟期促進(2回目) フィガロン乳剤 3,000倍		中	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●秋肥の施用...中晩柑		下	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●葉面散布(果皮強化と品質向上) カルピタP 770倍	8	上	ミカンハダニ ヤブカイガラムシ アザミウマ類	クマイアタックオイル	150倍	2,000倍	2,000倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●温州みかん熟期促進(2回目) フィガロン乳剤 3,000倍		中	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●秋肥の施用...中晩柑		下	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●葉面散布(果皮強化と品質向上) カルピタP 770倍	9	上	ミカンハダニ ヤブカイガラムシ アザミウマ類	クマイアタックオイル	150倍	2,000倍	2,000倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●温州みかん熟期促進(2回目) フィガロン乳剤 3,000倍		中	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●秋肥の施用...中晩柑		下	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●葉面散布(果皮強化と品質向上) カルピタP 770倍	10	上	ミカンハダニ ヤブカイガラムシ アザミウマ類	クマイアタックオイル	150倍	2,000倍	2,000倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●温州みかん熟期促進(2回目) フィガロン乳剤 3,000倍		中	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●秋肥の施用...中晩柑		下	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●葉面散布(果皮強化と品質向上) カルピタP 770倍	11	上	ミカンハダニ ヤブカイガラムシ アザミウマ類	クマイアタックオイル	150倍	2,000倍	2,000倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●温州みかん熟期促進(2回目) フィガロン乳剤 3,000倍		中	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●秋肥の施用...中晩柑		下	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●葉面散布(果皮強化と品質向上) カルピタP 770倍	12	上	ミカンハダニ ヤブカイガラムシ アザミウマ類	クマイアタックオイル	150倍	2,000倍	2,000倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●温州みかん熟期促進(2回目) フィガロン乳剤 3,000倍		中	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●秋肥の施用...中晩柑		下	樹勢維持	元 気 一 番	1,000倍	600倍	600倍	※アブラムシ発生園の場合	アブラムシ	ダントツ水溶剤	4,000倍
●貯蔵庫の管理	1	上	樹勢維持	尿 素	200倍						

◎ 施肥基準

※収穫量に応じて施肥量は調整する。
 (温州みかん:10a当たり生産量4トン目標の場合)
 (いしじ、中晩柑:10a当たり生産量3トン目標の場合)

肥料	春 肥		夏 肥		秋 肥		
	3月下旬	5月下旬	10月~11月上旬	元 気	濃 縮	元 気	濃 縮
極 早 生	4袋	3袋			7.5袋	6袋	
早 生 ・ 普 通	3袋	2袋	6袋	5袋	4袋	3袋	
い し じ	4袋	3.5袋	9袋	7.5袋	6袋	5袋	
大 津 ・ 青 島	3袋	3袋	8袋	7袋	5袋	4袋	

肥料	3月下旬		5月下旬		9月上旬	
	元 気	濃 縮	元 気	濃 縮	元 気	濃 縮
中 晩 柑	5袋	5袋	5袋	5袋	5袋	5袋

※濃縮348は15kg入り。
 ※いしじの夏肥を元気866または濃縮348で行う場合は、5月下旬と6月中旬に分ける。
 ※緩行性肥料の元気200は年間3回施肥の省力化タイプ。
 ※使用時期と施肥量を守り年1回の施用(傾斜地での使用は控える)

肥料	3月上旬		5月下旬		9月上旬	
	元 気	濃 縮	元 気	濃 縮	元 気	濃 縮
苗 木	1年生	80g/1樹	80g/1樹	80g/1樹	80g/1樹	80g/1樹
	2年生	150g/1樹	150g/1樹	150g/1樹	150g/1樹	150g/1樹
	3年生	300g/1樹	300g/1樹	300g/1樹	300g/1樹	300g/1樹

◎ 土壌改良資材

〈有機物資材〉必要に応じていずれかの資材を施用
 10a当たり施用量目安
 豊穰...2トン こだわり健ビ...2トン アツミン...40~100kg
 牛ふん(中晩柑)...1トン ココナツツビート...100~200個
 〈石灰質資材〉マリンカルまたは苦土石灰
 10a当たり100kg(前年末施用園140kg)
 ※施用後、有機物資材と併せて中耕する。
 (苦土資材...ニューエコマグ、スーパーマグ、硫マグ)土壌分析で不足の場合、施用する。

◎ 除草剤使用基準

●ラウンドアップマックスロード
 使用時期:雑草生育期(収穫7日前まで) 使用回数:3回以内
 50~100倍(スギナには25倍)
 [薬量10a当たり 500ml~1,000ml]
 [散布流量 10a当たり 50リットル]
 ※散布の際は専用のノズルを使用する。
 ●バスタ液剤
 使用時期:雑草生育期(収穫21日前まで) 使用回数:3回以内
 100~200倍
 [薬量10a当たり 500ml~1,000ml]
 [散布流量 10a当たり 100リットル]
 ※いねいに散布。
 ●シンバー水和剤
 使用時期:3月、7月上旬(収穫7日前まで) 使用回数:2回以内
 土壌全面に散布または雑草葉面に散布 750倍
 [薬量10a当たり 200g]
 [散布流量 10a当たり 150リットル]

★ 農薬散布時の注意点 ★

●風の無い時を選んで散布する ●近接作物に飛散しないように注意する
 ●散布の位置と方向に注意する ●使用時期・回数は基準に従い散布する
 ●散布機の圧力は適切にする ●残液は、海・川・池に流さない
 ●散布量は適切にする